



技術研究本部の歴史を綴る

技術弘報

発行
技術研究本部 総務部総務課
〒162-8830
東京都新宿区市谷本村町5-1
☎03(3268)3111(代)

若宮防衛大臣政務官

陸上装備研究所ご視察



一年の締めくくりに相応しく平成二十五年十二月十六日曜日、陸上装備研究所では、若宮防衛大臣政務官のご視察がありました。

その際、内部部局からは、外園大臣官房技術監、陸上幕僚監部からは、川瀬装備部副部長が随行されました。

はじめに、中央試験室玄関前において出迎え、二階所長応接室に移動後、本部長からの幹部紹介、陸上装備研究所長による概況説明、陸上開発官付第三開発室長による機動戦闘車概要と続き、陸上装備研究所システム研究部長による機動戦闘車技術試験概要説明を受けられました。

概況説明等が終了すると、屋外に移動され、中央試験室前に展示された機動戦闘車前で記念撮影がありました。その後、担当者から機動戦闘車実車での概要説明を受けられました。

更に、その機動戦闘車の車長席に乗り込み、旋回定盤での旋回及びスラローム走行、走行定盤での加速性等を体感して頂きました。その後、車両試験室前に到着されると、機動戦闘車から降車され、同試験室内に展示された別の機動戦闘車により、車体の細部構造について、モニターを見ながら担当者より説明を受けられました。

最後に、参集者に対していろいろの言葉を掛け、次の目的地である三菱重工業(相模原)向けに出発されました。



技術顧問会議開催



去る三月六日、本大会議室において平成二十五年度技術顧問会議が開催された。

この会議は、本部長が技術研究開発に関する共通的な技術事項について技術顧問の意見を求めるため、年二回開催され、構成員である技術顧問及び本部会議構成メンバーが一堂に会して開催されるものである。

会議は、渡辺本部長の開会の挨拶により始まり、技本幹部紹介に続き、議事に入った。

議事は、「平成二十六年度技術研究本部予算(案)」のうち鎌形総務部長から「組織・定員、予算」、山口事業監理部長から「研究開発主要事業等」についての説明があり、その後川崎技術企画部長より「国家安全保障戦略、防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画」、「デュアルユース技術への取り組み」及び「防衛生産・技術基盤戦略」について報告が行われた。引き続き、それぞれに對する活発な質疑応答が行われた。

休憩を挟み、各技術開発官から報告がなされた。技術開発官(陸上担当)付第五開発室長より「新除染セット」、技術開発官(船舶担当)付第三開発室長より「潜水艦用新魚雷」、技術開発官(航空機担当)付第三開発室長より「将来戦闘機機体構想の研究」、技術開発官(誘導武器担当)付中SAM(改)開発室長より「03式中距離地对空誘導弾(改)」について報告が行われ、それぞれの報告に對し質疑応答があり、関心の高さが伺われた。

最後に簡井副本部長の開会の挨拶をもって会議は終了した。

今回の会議においても、各技術顧問より経験等を踏まえた貴重な有益な意見を戴き、今後の技術研究本部のあり方及び研究開発を推進するうえで非常に有意義なものとなった。

平成25年度 議長等会議



平成二十六年一月三十一日(金)に市ヶ谷庁舎D棟九階の技術研究本部大会議室において平成二十五年度議長等会議が実施された。

本会議は、遠方に所在する試験場・支所のみならず、技本の管理部門、開発部門及び研究部門を含めた全機関が定期的に一堂に会する唯一の場となっており、平成十三年度から実施しているものである。

本会議は、本部長を始め七十三名が一堂に会し実施された。

会議は、本部長の開会挨拶で始まり、総務部総務課長、総務部会計課長及び事業監理部管理課長から平成二十六年度予算(案)組織・定員、経費及び主要事業の概要等について、事業監理部計画官から平成二十六年度中期計画(平成二十七年年度見直し)についての説明及び質疑が行われた。

また、各試験場長及び支所長から、試験場等の特性(地域特性を含む)を考慮した施策、事業についての説明及び質疑が行われた。

各試験場等からの現状の報告に際しては、各技術開発官、研究所等の担当者も真摯に耳を傾け、現場の生の状況を再確認している様子が見受けられ、会議を通じて、各試験場等の現状、将来への課題等について、技本全体としての意思疎通及び情報共有を一層促進して会議を終了した。

また、会議終了後、本部長以下会議出席者による懇親会も開催され、更なる親交が深められたとともに忌憚のない意見交換がなされた。

平成25年度

艦艇設計 フォーラム開催



技術開発官(船舶担当)藏田海将は、平成二十六年二月二十八日(金)、技術研究本部大会議室において平成二十五年度艦艇設計フォーラムを開催しました。

同開発官では、昭和五十七年から毎年一回、設計部門が将来艦艇等の設計に資する技術的検討成果を中心に発表を実施してきております。

今年度は渡辺技術研究部長長臨席のもと、内局の外園技係する海幕、海上自衛隊各部隊等との密接な情報共有を図り、積極的な提言を実施していく所存です。

③次世代掃海艇の部内設計研究について
設計調整専門官 内山 将太

④潜水艦の耐圧殻構造様式に関する研究について
第二設計室 貴田 昭臣

⑤統合電気推進の技術課題について
第五設計室 秋庭 秀康

⑥掃海艇の推進システムに関する消磁方式の研究について
第七設計室 荒尾 友香

①次世代護衛艦の部内設計研究について
設計調整専門官 田川 裕昭

②次世代潜水艦の部内設計研究について
第三設計室 大迫 義久



第5回 日・ASEAN諸国 次官級会合における装備品展示

平成二十六年二月十九日
(水)、航空自衛隊那覇基地において、日・ASEAN諸国次官級会合に参加されたブルネイ・カンボジア・ラオス・インドネシア・マレーシア・ミャンマー・フィリピン・シンガポール・タイ・ベトナムの次官等約三十名が、技術研究本部が研究・開発した装備品等を視察した。

本展示は、「非伝統的安全保障分野での装備・技術協力の可能性」をトピックスとして我が国の優れた技術の紹介を行うもの。

展示内容は、爆発物処理ロボット、先進個人装備システム、壁透過人物探知装置、ソフトウェア無線機及び手投げ式偵察ロボットの試作品等の他、二波長赤外線センサ、走破性・放射線防護性向上型小型UGV、CBRN脅威評価システム、CBRN対処遠隔操縦作業車両システム、IED対処システムのパネル及び動画による説明を行った。

ASEAN諸国の参加者からは、展示品や展示パネルについて活発な質問や意見が聞かれたほか、実際に展示品を手にとり操作する等、大変興味をもたれたようで、約一時間の視察を終了した。



技術研究本部は平成二十六年三月一日、内部部局及び各研究所等において二五技術研究開発支援システムの運用を開始した。本システムは平成二十年度から運用されていた前システムを換装し、今後五年間の運用を行うものであり、各個人に端末が貸与されたものとしては、三代目のシステムである。本システムは、主要端末のOSにウィンドウズ7プロフェッショナル三十二ビットを搭載し、身分証明書によってログインを行う。科学技術計算サーバ及びM&Sのサーバ群を更新し、計算能力が向上したとともに、仮想化OSの導入により、運用及び管理の効率化を実現している。また、大規模震災時に業務継続能力の向上を図るため、免震装置及び遠隔地レプリカントサーバの導入を行った。さらに、セキュリティシステムの統合化により、能力の強化を図っている。

設置工事は、平成二十五年十二月に市ヶ谷地区のサーバ構築から始まり、各地区のLANケーブルの敷設作業、サーバ構築及び端末換装を行い、平成二十六年二月二十一日、

日の航空装備研究所新島支所の換装で全地区の換装が完了した。端末換装の際、一部の地区で広範囲なネットワーク障害が発生するトラブルに見舞われたが、原因を究明し、解決に至り、平成二十六年二月二十八日に引渡しが完了した。

最後に、本システムの運用開始にあたり、各地区業務担当者等関係各所より多大な協力を頂いたことに対し、深謝申し上げる。(写真はネットワーク監視状況)

二五技術研究
開発支援
システムの運用
開始について

